

# オペレーティングシステム 正誤表

(2014年9月15日 初版1刷発行)

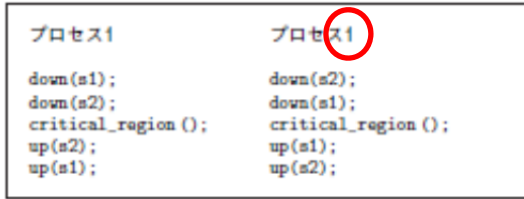
※赤字は変更箇所 (2015.10.5)

	誤	正
p.18 下から 12 行目	インタフェス	インタフェース
p.18 下から 7 行目	処理流れは…	処理の流れは…
p.27 下から 3 行目	…の動作時間を…	…の動作時間の比率を…
p.28 下から 3 行目	A=5, B=9, …となり, 平均は 4.0 となる.	A=5, B=10, …となり, 平均は 4.2 となる.
p.32 設問 3 上から 5 行目	…での間のプロセッサ利用率をそれぞれ求めよ.	…での間のプロセッサ利用率を求めよ.
p.43 下から 1 行目	…を用いている. full	…を用いている. fill
p.53 下から 5 行目	P=001 なら読み書き可能, …	P=001 なら読み込み可能, …
p.57 下から 2 行目	される前にページを前もってメインメモリに…	される前にあらかじめページをメインメモリに…
p.82 上から 15 行目	1 つは, ファイルの…	1 つ目は, ファイルの…
p.87 上から 15 行目	…を利用することである.	…を利用する方法である.
p.87 上から 21 行目	…不正なエントリとなってしまうからである.	…不正なエントリとなってしまう.
p.89 上から 16 行目	…な実際の手順をログ領域への書き	…な実際の手順をログ領域へ書き
p.101 上から 9~10 行目	ただし, プリンタはユーザプロセスが処理の完了を知る必要はない.	ただし, プリンタの場合, プリンタはユーザプロセスが処理を完了したことを知る必要はない.
p.120 下から 2 行目	…がプロセス $j$ によって…	…がプロセス $i$ によって…
p.121 下から 4 行目	1 と資源 2 を 1 個ずつ, $R_3$ は資源 1 を 1 個, 資源 2 を 3 個, …	2 と資源 3 を 1 個ずつ, $R_3$ は資源 1 を 2 個, 資源 2 を 3 個, …
p.122 上から 2 行目	…同様にプロセス 3 が実行できる. プロセス 3 が了すると,	…同様にプロセス 1 が実行できる. プロセス 1 が了すると,
p.122 上から 4 行目	この時点でプロセス 1 も実行でき, …	この時点でプロセス 3 も実行でき, …
p.129 設問 4 上から 1 行目	4 つのプロセスと…	3 つのプロセスと…
p.131 上から 7~8 行目	可用性とは, 情報へのアクセスを許可されたものが必要なときに, その情報へ…	可用性とは, アクセス権限を持つ者が情報へのアクセスを望んだ際に, その情報へ…
p.155 下から 14 行目	…の時間を, B は 2/8, C は 3/8 の時間	…の時間を, B は 2/6, C は 3/8 の時間
p.155 下から 13 行目	全体では 0.725 の利用率…	全体では 0.808 の利用率…
p.158 下から 7 行目	(2) 時間固定長によるファイル配置	(2) 固定時間長によるファイル配置
p.159 下から 11 行目, 4 行目, 1 行目	時間固定長	固定時間長
p.163 設問 6 上から 1 行目	時間固定長, データ固定長の…	固定時間長, 固定データ長の…

【図の修正箇所】

■p.46 設問 4

(誤)



(正)

赤囲み箇所の 1 を 2 に変更する.

■p.55 図 5.7

(誤)

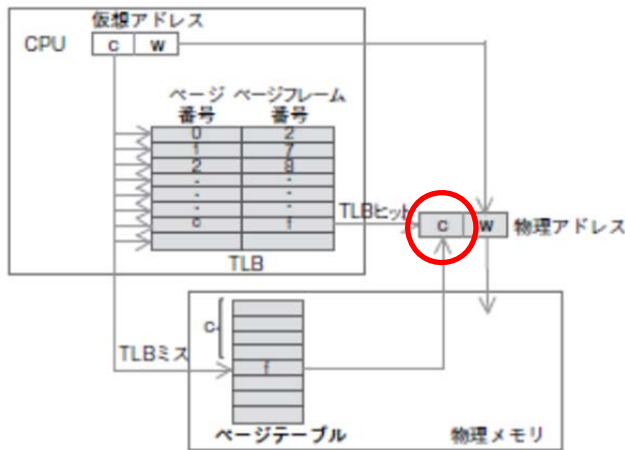


図 5.7 TLB を用いたページング

(正)

赤囲み箇所の c を f に変更する.

■p.122 図 10.4

(誤)

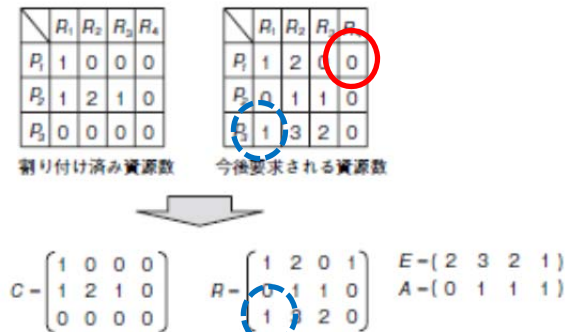


図 10.4 複数種類の資源に対する銀行家のアルゴリズム

(正)

赤囲み箇所の 0 を 1 に変更する. 青囲み (点線) 箇所の 1 を 2 に変更する.